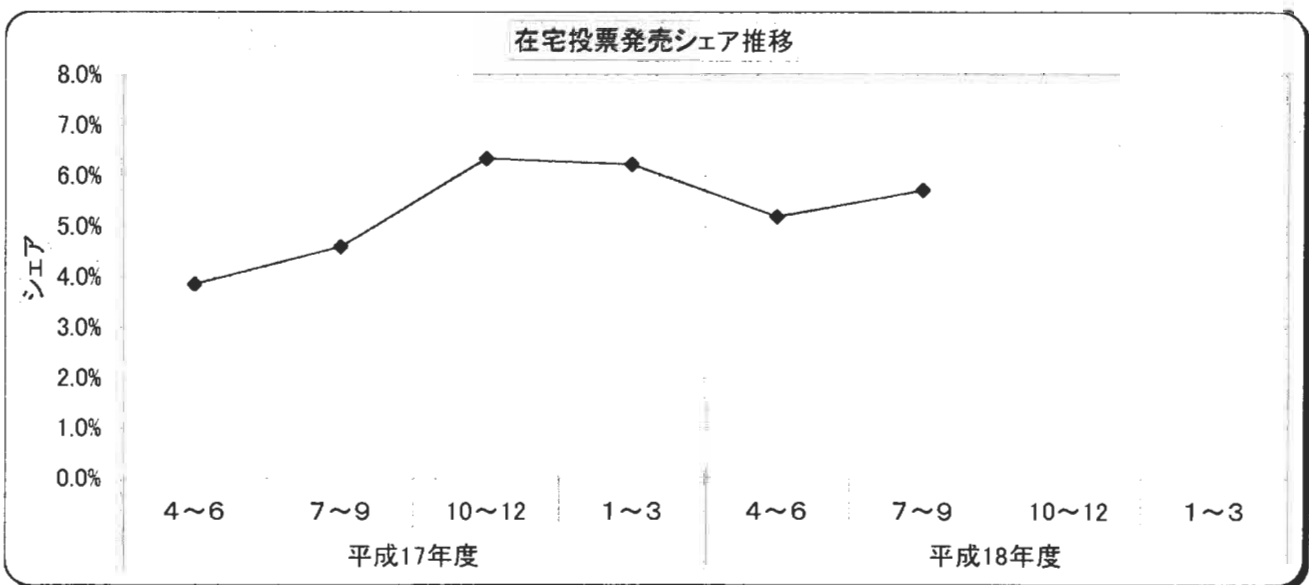
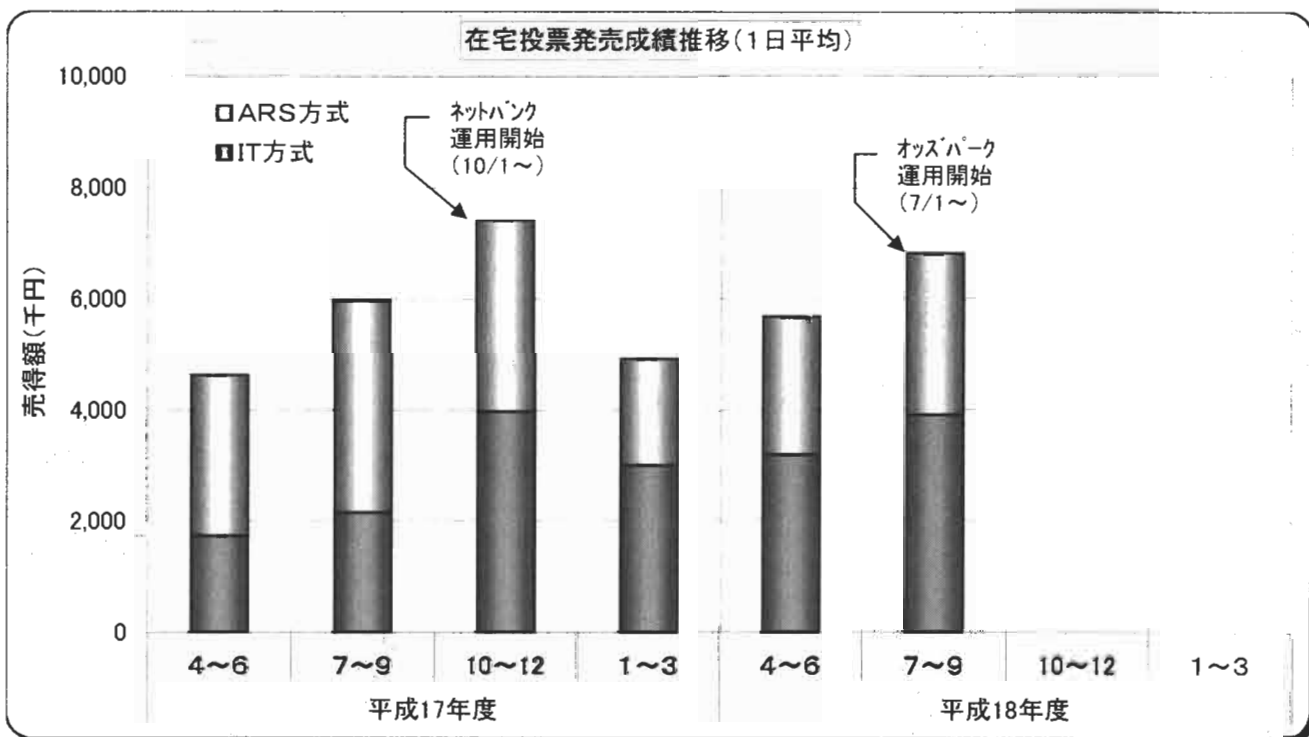


在宅投票発売成績推移(1日平均)

(単位:日、千円)

年度	四半期	日数	ARS方式*		IT方式		合計	シェア
				うちNB*		うちNB		
平成17年度	4~6	29	2,897	0	1,729	0	4,626	3.9%
	7~9	26	3,819	0	2,147	0	5,966	4.6%
	10~12	26	3,430	0	3,976	1,315	7,406	6.3%
	1~3	8	1,925	0	2,999	1,688	4,924	6.2%
	通年	89	3,234	0	2,622	536	5,856	5.0%
平成18年度	4~6	27	2,495	3	3,182	1,836	5,677	5.2%
	7~9	18	2,910	5	3,899	2,398	6,809	5.7%
	10~12	0						
	1~3	0						
	通年	45	2,661	4	3,469	2,061	6,130	5.4%



※ ARS(Audio Response Systemの略)方式:プッシュホンのボタン操作により入力し、投票する方式  
 ※ NB(Net Bankの略):Webサイト上で、入金照会、振り替えなどのサービスを提供する銀行

## 第三者による経営診断の実施について

### 1 金沢競馬の経営診断

経営改善策で短期的な方策として整理された「第三者による経営診断の実施」について石川県産業創出支援機構に依頼。再建計画（案）の概要は次のとおり

### 2 金沢競馬の再建に向けた方針

- ① 短期的には、運営体制の見直しによる経費の削減、レースの魅力化、営業戦略の見直し等による売上げ減少傾向を食い止め、単年度収支均衡を目指す。
- ② 中期的には、減少する競馬ファンの新たな獲得策として、基金を活用した総合的な対策を講ずる。（新たな複合施設の建設、施設の改修を含む）
- ③ 長期的には、競馬場を中心に、当地域を「賑わいとアメニティーゾーン」と位置づけ、民間企業との連携を含め、地域に密着した一大観光レジャーゾーンとしての活用も検討する。

### 3 短期的な方策（3年以内）

#### (1) 収入の確保（売得額の維持）

- ① 運営、実施体制の見直し
  - ・ 民間委託が可能な分野を大胆に委託することにより、人件費を中心に大幅な削減を図る。（削減経費については、②・③の原資とする）
  - ・ 民間経営の手法の取り入れ（PDCA体制サイクルの確立） など
- ② 魅力あるレースの構築（レース当たりの売上げ増）
  - ・ 準メインレースの位置づけ（第9レースの賞金の増額）
  - ・ 出走手当の増額によるレースの充実  
（年齢（若駒の優遇）、貢献度（年間出走回数）による手当の差別化） など
- ③ 営業戦略の見直し
  - ・ 1日当たりの開催レースの増（12レース/日）
  - ・ 冠レースの企業協賛金の見直し（協賛金は全て賞金、出走手当に充当）
  - ・ 売上げが期待できる時期での集中広告宣伝の実施 など

#### (2) 経費の抑制

(1)①に加え、一般管理費（人件費、報償費を除く）を約8%削減する。

#### (3) 収支予測

(1)及び(2)を実施に移すことにより、県営分で期間内に単年度収支を2千万円程度の黒字に転換することが可能。

場外発売所に関する検討資料

1. 専用場外発売所の設置・運営にかかる経費（概算）

区分	従来規模	小規模
施設形態	郊外設置で単独施設	集合店舗等の一部を利用
施設規模	施設規模：800㎡ 収容人員：800人 駐車台数：500台（専用） 設置窓口：発売22、払戻5	施設規模：350㎡ 収容人員：200人 駐車台数：150台（共同） 設置窓口：発売7、払戻2
必要設備	馬券発売（払戻）機、映像装置、場内TV、TZS通信処理装置、無停電電源装置など	
初期費用（概算）	約 620百万円 （施設整備費、機器整備費等）	約 213百万円 （施設改修費、機器整備費等）
運営費用（概算）	約 107百万円 （土地借上料、人件費等）	約 40百万円 （入居テナント料、人件費等）
年間必要経費 （初期費用は6年償還）	初期費用償還：約 103百万円 年間運営費用：約 107百万円 合計：約 210百万円	初期費用償還：約 36百万円 年間運営費用：約 40百万円 合計：約 76百万円

2. 収支試算にあたっての前提

検討にあたっては、周辺人口、開催規模が同程度である福山競馬を参考とした。

(1) 収入見込額の算出

〈本場開催時〉

$$\text{周辺人口} \times \text{参加率} \times \text{開催日数} \times \text{平均購入額} \times \text{収支影響率} = 218.00 \times \text{周辺人口} \quad (\text{係数 a})$$

(0.054%) (89日) (18,900円) (24%)

〈場間場外時〉

$$\text{周辺人口} \times \text{参加率} \times \text{発売日数} \times \text{平均購入額} \times \text{収支影響率} = 161.74 \times \text{周辺人口} \quad (\text{係数 b})$$

(0.035%) (163日) (18,900円) (15%)

※ 参加率：福山競馬の場外発売所（シャトル4ヶ所）における1日あたりの参加率（平均入場者数/周辺人口）

〈参考〉採算ラインの周辺人口

- ① 従来規模  
周辺人口 = 210百万円（年間必要経費）÷ 379.74（係数 a + 係数 b）  
= 約 55万人
- ② 小規模  
周辺人口 = 76百万円（年間必要経費）÷ 379.74（係数 a + 係数 b）  
= 約 20万人

(2) 本場への影響

本場からの距離が近い場所に場外発売所を設置したことにより、競馬ファンが本場から場外発売所の方へ流れ、本場の売得が減少している事例が見られる。

福山競馬の場外流出状況

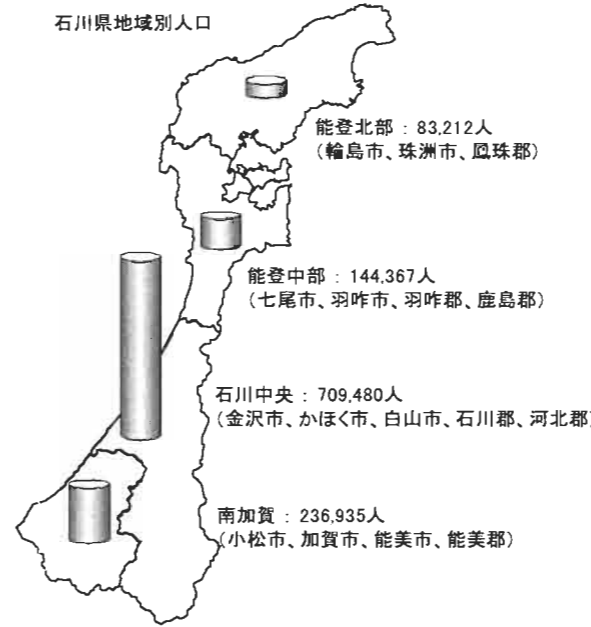
場外発売所	本場からの距離	本場からの移行率
シャトル神辺・柳津	20 km以内	60%

（参考）他主催者の場外流出状況

本場	場外発売所	本場からの距離	本場からの移行率
名古屋競馬	サンアール弥富	15 km以内	70%
札幌競馬場	札幌駅前場外	5 km以内	80%

3. 試算結果

- (1) 場外発売所単独の収支を地域別人口から試算すると、従来規模・小規模、共に収益性が見込める地域は、人口が集中している石川中央のみであり、小規模場外だけに限定していえば、南加賀も可能性がある。
- (2) しかし、本場への影響を考慮した金沢競馬全体としての試算では、南加賀の小規模場外発売所のみがわずかなプラスとなっている。



場外発売所試算

（単位：百万円）

区分	単一場外収支 ①	本場への影響		全体収支 ①+②
		移行率	影響額 ②	
能登北部	従来規模	5%	▲2	▲180
	小規模		▲2	▲46
能登中部	従来規模	10%	▲7	▲162
	小規模		▲7	▲38
石川中央	従来規模	60%	▲190	▲131
	小規模		▲119	▲22
南加賀	従来規模	10%	▲11	▲131
	小規模		▲11	3

4. 今後の方針について

- (1) 以上のことから考察すると、あくまでも仮定の数値による試算結果ではあるが、
  - ① 従来規模の場外発売所については、収益性を確保することが非常に難しく、
  - ② 小規模の場外発売所についても、必ずしも収益性を確保できるとは言い難い。
 いずれの場合も、主催者自らがリスクを負ってまで設置すべきではないと考える。
- (2) なお、本場への影響が少ないと考えられるものとして、
  - ① 愛知県競馬組合が押し進めている非滞留型の場外発売所（映像装置がない宝くじ売場的なミニ場外）があるが、
  - ② 現在のところ、まだ設置に至っていないことから効果のほどが分からず、引き続き、勉強していくことが必要ではないかと考えている。

## ナイター競馬に関する検討資料

## ナイター開催条件

開催期間：7月～9月（3ヶ月間） 開催日数：24日（6開催×4日）

## 1. ナイター競馬開催にかかる経費（概算）

区 分	一般設備型	簡易設備型 (自家発電機リース)
設計照度	ゴール前 1,200(Lx)、スタンド前 1,000(Lx)、向正面 800(Lx)、 コーナー部 1,000(Lx)	
初期費用 (概算)	約 1,463 百万円 〔馬場・厩舎・駐車場照明、 受変電設備、自家発電設備など〕	約 1,058 百万円 〔馬場・厩舎・駐車場照明、 受変電設備など〕
運営費用 (概算)	約 112 百万円 〔施設保守料、夜間割増賃金、 電気料など〕	約 116 百万円 〔施設保守料、夜間割増賃金、 電気料、発電機リース代など〕
年間必要経費 〔初期費用は 10年償還〕	初期費用償還：約 146百万円 年間運営費用：約 112百万円 合 計：約 258百万円	初期費用償還：約 106百万円 年間運営費用：約 116百万円 合 計：約 222百万円

## 2. 必要経費に見合う売得額、入場者の増

区 分	一般設備型	簡易設備型
必要経費額/日 = 年間必要経費 ÷ 開催日数(24日)	約 11百万円	約 9百万円
売得額の増/日 = 必要経費額/日 ÷ 収支影響率(24%)	約 45百万円	約 39百万円
夜間増加率(売得額) = 売得額の増/日 ÷ 平均売得額(H17)	+ 50%	+ 43%
入場者数の増/日 = [(売得額の増/日 + 平均売得額(H17)) ÷ (購入単価(H17)) × 夜間開催補正率(80%)] - 平均入場者数(H17)	3,144人	2,830人
夜間増加率(入場者数) = 入場者数の増/日 ÷ 平均入場者数(H17)	+ 88%	+ 79%

※ 平成17年度実績は次のとおり

平均売得額：約90百万円（自場）、購入単価：25,000円、平均入場者数：3,590人

参考：大井競馬場開催成績比較（平成17年度：1日平均）

区 分	総売得額	本場売得額	入場者数	購入単価
夜間開催	964,679千円	311,102千円	10,481人	29,700円
昼間開催	1,011,367千円	246,874千円	6,756人	36,500円
夜間増加率	▲ 5%	+ 26%	+ 55%	▲ 19%

## 3. 検討結果

ナイター競馬の開催については、設備等の初期費用、ランニングコスト、それに加えて、ナイターへの移行に伴う売得額への影響などを考え合わせると、上記2のように、従来の昼間開催時に比べ、簡易設備型であっても、79%の入場者の増加があって、はじめて収支のバランスが確保される状況であることから、非常に難しいと考えられる。